

【3月11日（月）朝礼講話】

2011年（平成23年）の今日。3月11日。金曜日でした。午後2時46分。宮城県沖を震源とする、巨大地震が発生しました。東日本大震災です。地震の規模はマグニチュード9.0で、日本周辺における観測史上最大の地震となりました。そして、大津波が押し寄せ、東北地方を中心に壊滅的な被害を受けました。

あれから8年の月日がたちました。今月8日現在のまとめでは、岩手・宮城・福島の3県を中心に、死者は1万5897人、行方不明者は2533人に上り、多くの尊い命が奪われ、今なお見つかることのない命があります。まだ、仮設住宅で生活しなければならない人、自分の住んでいた町に戻れない人たちもいます。

みなさんも想像してみてください。ある日突然大きな地震が起こりました。何とか自分の命だけは守ることができました。しかし、帰る家は地震で倒壊し、住む家が無くなってしまいました。そして、ついさっきまで一緒に勉強していた友達が、今朝一緒に朝ご飯を食べ「行ってきます」と別れた家族が、一瞬にして命を奪われたり、突然自分の前から消え二度と帰ってこないのです。

今から全員で、東日本大震災で犠牲になられた方に哀悼の意を込め、当たり前前に生活できることに感謝し、黙とうを捧げます。姿勢を正しましょう。目をつぶって。黙とう。黙とうを終わります。目を開けてください。

日本は、地震活動期に入ったと言われていています。このあたりも、いつ大きな地震が来てもおかしくないと言われていています。東日本大震災は、人ごとではありません。常に、今ここで地震が起きたらどのように行動したらよいかを考えながら生活してほしいと思います。「自分の命は自分で守る」そのために必要な備えをしましょう。

今日は多くのテレビや新聞で、東日本大震災の話題が取り上げられると思います。それを見て人ごとではなく、自分のこととしてとらえながら見聞きしてほしいと思います。

今日は、桜井先生のお話を聞きます。少し長くなりましたが、校長先生のお話を終わります。